

2014年度 上期決算説明会 質疑応答要旨

お断り：この要旨は決算説明会での質疑をご参考として掲載するものであり、一部補足を含め簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

記

1. 開催日 : 2014年11月20日(木)
2. 場所 : 本社 会議室
3. 質疑応答内容:

<Q1>2014年度受注・受託高が当初計画745億円から見通し665億円に下方修正となっている。

また、受注・受託高に関し、この状況評価及び今後の対策について教えてほしい。

<A1>受注・受託高が減少している主要因は廃棄物処理関連事業である。

案件規模、案件構成の変化で受注・受託高は変動するものの、当社が優位性を持つ流動床式ガス化溶融炉のマーケットは十分存在し、既設炉の更新需要も控えており、技術のブラッシュアップ、コストダウンにより、今後の受注・受託高は持ち直すことができると考える。

なお、受注・受託残高実績は2012年度末時点で1,130億円、2013年度末で1,250億円、2014年度上期末で1,345億円と着実に増加している。

<Q2>「震災復興本格化に伴う国内工事コストの上昇」という事業環境の中で、建築コストの上昇による受注採算悪化が懸念されるが、過去と比べた採算の状況を教えてほしい。

また、仮に採算が悪化しているのであれば、中長期的なコスト上昇への対策を教えてほしい。

<A2>土木建築部分の比率が高い廃棄物処理関連事業及び水処理関連事業の工事コストは上昇傾向にある。

特に東日本大震災以降のコスト上昇が想定以上である。震災前に予算取りし、震災後に入札執行した公共工事では、入札不調も起こっている。当社はこのような状況に対し、ゼネコンポーシオンは上昇リスク分を見込んでコスト積算すると共に、機器、施工方法の工夫によりコストダウンを図っている。

また、受注後、工事期間中のコストアップについて、想定以上のコスト上昇があった場合は、客先との契約条件に則り、上昇分を精算項目として客先に要求し回収することで採算悪化を防止していきたい。

<Q3>英国での廃棄物処理関連事業の受注見通しを教えてほしい。

<A3>ごみ処理方式にはストーカ炉と流動床式ガス化溶融炉等がある。

英国では再生可能エネルギーへのインセンティブ政策がとられており、当社が優位性を持つ流動床式ガス化溶融炉等の先進技術が優遇されていることから、当社技術は一定の評価を頂いており、現在数件の案件に取り組んでいる。

但し、英国では所謂PFI方式での事業運営が主流であったが、現在当社が取り組んでいる案件は、民間主導案件であり、資金調達をプロジェクトファイナンスとしていることから、その組成が遅れている状況である。

〈Q4〉木質バイオマス発電事業の今後の国内展望を教えてください。

〈A4〉現時点で計画されているバイオマス発電事業の件数と規模を勘案すると、今後、日本国内においては原料確保が困難となることが予想される為、大規模施設から小規模施設の計画へ推移すると考えられる。

〈Q5〉化学・食品機械関連事業のグラスライニング製機器の売上比率、並びに同分野の今後の国内外需要見通しを教えてください。

〈A5〉化学・食品機械関連事業における売上高(約 70 億円/年レベル)の半分強がグラスライニング関連であり、その大半が国内向けである。海外については中国・台湾等アジアへ輸出している。

需要の見通しについては、当社のグラスライニング技術が活かせる付加価値が高いファインケミカル・医薬・食品分野に販路を拡大し、加えて、既設の改造・修理等のアフターサービスの堅調を維持することで、売上高は確保できるものと考えている。

また海外については、ベトナム現地法人 KESV (KOBELCO ECO-SOLUTIONS VIETNAM CO.,LTD.) のグラスライニング製機器製造工場を主体に、ベトナムを含むアジア圏での販路拡大を進めていきたい。

〈Q6〉微細藻類培養に関する貴社の強みと、現時点での開発計画の前倒し可能性有無を教えてください。

〈A6〉従来株(ユーグレナ・グラスリス Z 株)と比較し、当社が見出した新規株はバイオマス生産性が 2 倍以上であることが大きな強みである。

また、新規株での最適培養条件を探索中であり、この部分でも差別化できるものと考えている。

開発計画においては既に発表した通り、バイオ燃料、食品・化粧品、化成品等への適用を考えており、培養条件の最適化を進める一方、ビジネスパートナー候補との協議をしている段階である。

現時点では計画通り着実に進める予定である。

〈Q7〉飯館村小宮地区の片づけごみ処理業務の受注時期と類似案件の今後の見通しを教えてください。

〈A7〉飯館村案件は神戸製鋼所との JV にて 2013 年 11 月に受注。

今後とも各自治体並びに中間貯蔵施設に設置される焼却・減容設備、水処理設備の需要に対し、神戸製鋼グループ一体となって当社の得意な技術を以って貢献していきたい。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在把握している情報、及び合理的であると判断する前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

以 上